

科目分類	助産学実践科目 実習		開講時期	1年 後期	
授業科目	助産学実習Ⅲ（ハイリスク母子のケア）				
選択／必修	必修	単位数（時間数）	1単位	45時間	授業形態 実習
担当教員	木下 珠希 ・ 窪田 裕子 ・ 田中 真穂				
メールアドレス	t-kinoshita@tsuruga-nu.ac.jp(木下) y-kubota@tsuruga-nu.ac.jp(窪田) m-tanaka@tsuruga-nu.ac.jp(田中)	オフィスアワー	事前にメール連絡してください		

授業目的	<p>1) ハイリスク状態にある妊産褥婦と胎児・新生児、およびその家族について、個別性を考慮し、情報収集ができる。</p> <p>2) ハイリスク状態にある妊産褥婦と胎児・新生児、およびその家族について、収集した情報を、分析・解釈・統合し、助産診断ができる。</p> <p>3) 助産診断に基づき、助産計画を立案し、指導・助言を受けながら実施・評価ができる。</p>
授業概要	<p>ハイリスク状態にある妊産褥婦の健康状態、NICU に収容されている新生児に対する健康状態をアセスメントし、アセスメントした結果に基づいてハイリスクの妊産褥婦と新生児に望ましいケアを、指導助言を受けながら実践できる基礎的能力を養う。</p>
授業内容	<p>1. 実習期間：後期（9月～12月）の1週間</p> <p>2. 実習方法： 入院中のハイリスク妊産褥婦と胎児もしくは新生児を1例受け持ち、助産過程の展開を実施する。</p> <p>3. 実習施設（予定）： 敦賀市立病院 産科・婦人科 井上クリニック 福井県済生会病院 神野レディースクリニック</p> <p>*詳細は実習要項参照</p>
教科書・参考書等	周産期の診断と技術Ⅳ（ハイリスク）の教科書・参考図書に準じる。
成績評価基準・方法	実習要項に記載する方法・基準

履修要件	前期開講科目の単位取得
留意事項・ その他	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 周産期の診断と技術IV（ハイリスク）で学んだ知識の確認が必要となります。</li><li>・ 健康管理に留意し、実習に臨んで下さい。</li><li>・ 実習の姿勢として、主体的な学修を積み上げていけるよう行動できることを期待します。</li></ul>